

**2019 年度AO選抜 文学部 国際文化学域**  
**「国際方式（英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語）」**

---

**【選考講評】**

**1. 実施状況**

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
国際文化学域	26	23	17

**2. 第一次選考<ES（エントリーシート）と課題レポート・志望理由書等>**

(1) 評価ポイント

国際的なコミュニケーション体験が具体的に記述され、それが入学後の学習目的と明確に結びついている場合に評価が高くなりました。逆に、ただ体験を述べているだけで、それをどのように自分のものとして吸収しているのか不明確である内容には評価を低くしました。

(2) 解答状況

全体としてこちらが希望している内容が多い印象を受けました。能力の大きなばらつきは感じられませんでした。入学したいという意欲を感じられないような短い内容の志望理由書がありました。

**3. 第二次選考<面接試験>**

(1) 評価ポイント

面接では質問されたことに、口先でごまかすことなく、真摯に答える態度を最低限の評価基準に据えました。自分の国際コミュニケーション体験がしっかり自分のものとして身につけていることが感じとれ、それが入学後に追究しようとしている学習内容や、卒業後の進路と明確に結びついている応答に高い評価を与えました。

(2) 解答状況

全体としてこちらの要請を満たす解答が多く、面接でははっきりとした真摯な受け答えが多かったという印象を得ました。能力に大きな差異は感じられなかったのですが、読解能力や表現力の点で劣っているため、内容をあまり理解していない受験生も見られました。

(3) 試験（面接）内容

国際化・グローバル化していく世界が抱えるさまざまな問題を取り上げ、その問題に対してどのように対処していくべきなのかを考察する内容の問題を作成し、その内容を正確に整理して、適切に理解しているのか、またその問題と入学後の学習内容とが繋がっているのかを問いました。

(4) 出題（面接）の意図

コミュニケーション能力が十分であるのかを読み取ろうとしました。また、国際的

コミュニケーションの体験が現在の自分にどう活かされているのか、将来活かしているのかを聞き出そうとしました。さらに、現代社会が抱える問題に対して自分の意見をしっかりと持って、それを表現できる能力を有しているのかが重要なポイントになりました。

(5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

普段から新聞やテレビ、ネットでニュースを現代社会が抱える問題を理解し、それに関してディスカッションできる能力を身に付けていくことを望みます。そうでないと、読解力があっても、文章を深く理解し、コミュニケーションしていくことが困難になります。

以上